

学 校 経 営

学校を取り巻く現状と課題

1 学校を取り巻く現状

出雲崎町は良寛様を輩出し天領の地として栄えた町である。その出雲崎町で、昭和47年に旧西越中学校と旧出雲崎中学校の両校が統合して新制出雲崎中学校が設立された。以来40年、学校教育の実績を積み重ね、地域の学校としての伝統を築き上げてきた。

町民の中学校に寄せる関心や期待は大きく、それが学校への支援となって形に表れている。町当局も学校教育に対する支援を惜みず、日々の教育活動を支えている。

生徒数は各学年40名前後で近年推移してきたが、今後は30名を下回っていくことになる。情報化社会がもたらす問題や家庭崩壊等の社会の流れと無関係でいられない状況である。人間関係構築力が弱い生徒や発達障がい疑われる生徒も各学級に数名いる。

2 学校課題と年度の重点目標

出雲崎中学校は、地域の学校として生徒や保護者、そして地域から信頼される学校でなければならない。そのためには、安全安心な中で確かな学力の定着と豊かな心の育成を図ることが必要である。生徒の実態を的確に把握し、長期的展望に立つて当面する課題解決を図り、生徒の成長を確かなものとする学校運営が求められている。

平成24年度には新学習指導要領完全実施を控え、今年度はその準備に万全を期さなければならない。今まで以上に自らの考えをしっかりともち、的確に状況判断し、自己の思いや考えを適切に表現し、伝えることのできる能力を培うことが学校教育に求められている。

しかし、当校の生徒の実態を見ると、素直で前向きに活動に取り組むが、社会性の発達が不十分な生徒も多い。自己を深く見つめ、自ら目標を定め、意欲的に挑戦しようとする姿勢に欠ける面がある。このような生徒の実態を踏まえ、当校の教育目標「豊かな心 たくましく実践」を達成するために、「知」「徳」「体」の調和のとれた人間の育成を目指し、次の3点を本年度の重点目標として設定して教育活動を推進する。

意欲をもってわかるまで、できるまで学ぶ生徒の育成

お互いを思いやる 心優しい生徒の育成

目的をもって自己に挑戦し、自らを鍛える生徒の育成

学校経営の基本方針

平成23年度の重点課題

学力の向上

「学力」とは、人間が生きていく上で基盤となる力である。「学力」は、学習面の力だけでなく、生活するために必要な力全てを学力と考える。学習面での力は、授業をとおして培う力であり、結果は各種の検査で数値的に表れる。生活面の力は、特別活動や体験活動、生徒指導をとおして培われる力であり、具体的な行動として表れる。学力の向上を図るとき、学習面と生活面の指導は不離一体のものである。学習面と生活面の両面から適切な指導を行い、人間として生きていく上で必要な力を培い、学力の向上を図る。

情報を的確に取得する（見る、聞く、読む、感じる）

学力の内容

自分で情報を整理する（考える、判断する、まとめる）

【学習】自分の考えを分かり易く伝える（話す、書く、表現する）

【生活】主体的に行動する（自らの考えをもつ）

重点目標達成のための具体的な取組

1 学校経営の基本的な構え

教育は「信頼」無くしては成り立たない。生徒と教師、保護者と教師、地域住民と学校が互いに信頼できる関係づくりに努めなければならない。学校・教師への信頼感が確立したとき、学校の説明や教師の話に耳を傾け、教師の言葉の裏にある思いを感じ取ってくれるようになる。

そのためにはまず、生徒が安心して学べる学校の環境作りに努める必要がある。次に、生徒の能力や資質の向上へ向けて実態に即した指導が必要である。生徒の小さな変化や生徒の醸し出す雰囲気把握し、「生徒の見取り」のできる高い感性と深い洞察力のある教師でなければならない。その上で、刻々と変化する生徒の実態に即して、「的確な指導」を行うことが求められる。そして、指導後の生徒の様子や変容を確認し、次の指導へとつなげていく「事後指導」が適切になされる教師でなければならない。

一人一人の教師が教師としての責務をしっかりと受け止め、生徒のあるべき姿の実現に向けて見通しをもって指導にあたる学校経営を推進する。

2 具体的な学校運営

生徒が安心して学べるためには、規範意識を確立させなければならない。世の中で通用しないことは学校でも通用しないという意識を植え付ける。そのために日常の中で正しい身だしなみ、遅刻・忘れ物・いじめを許さない等、個への指導と集団への指導の両面から規律ある学校作りに努める。

次に、生徒の自己肯定感・自己有用感を高めることが必要である。実際の指導にあたっては、生徒が一つ一つの課題を克服する過程を大切に、生徒に自信をもたせることを重視した学校運営に努める。また、生徒指導では中学生としてあるべき姿を指導し、その姿を基に生徒が主体的に活動する場を意図的に設定した教育活動の推進に努める。

創立40周年記念の年をむかえた。地域や保護者との連携・協力体制を向上させる絶好の機会と捉えるとともに、生徒会の活動を充実させ、生徒に地域の中で育てられていることを理解させていく。

(1) 生徒一人一人を大切にす。

ア ユニバーサルデザインを取り入れた分かる授業を展開する。

教材研究を深め、少人数での言語活動を設定し実施する。

「学習規律の確立」「家庭学習の定着」を推進する。

その時間のねらいや目標が明確な授業を展開する。

小・中連携を深め、学習面の中1ギャップを防止する。

イ 不登校やいじめを生まない生徒指導の充実を図る。

発達障がい疑われる生徒へは、個別支援シートを活用し支援に努める。

学校行事を通して所属感、連帯感を実感できる学級・学年経営に努める。

いじめをしない、いじめを見逃さない、いじめを回避できる生徒の育成に努める。

小・中連携により生徒理解と指導の継続性を推進する。

周りの空気や相手の顔色を読む力、困難を回避する力の育成を図る。

ウ 個が生きる集団の育成を図る。

学校行事や体験活動を通して内面に根ざした道徳教育に努めるとともに、ソーシャルスキルトレーニング等による人間関係構築力の育成を図る。

あいさつと返事、時間を守る、提出物の厳守、清掃がきちんとできる等の基本的生活習慣定着のための指導をきめ細かく繰り返し、徹底させる。

学級での班での話し合いや班の競い合いを通し、絆作りや連帯感を深める。

エ 健康で安全な学校生活を推進する。

学校間や家庭・地域社会、関係機関との連携を強化し、安全管理体制を構築する。

部活動の充実と食育や健康に関する指導を充実させ、体力の向上を図る。

校外外における日常生活における体力向上の推進を図る。

校地・校舎の安全点検、修理・修繕、環境美化を日常的に行う。

教室環境のユニバーサルデザイン化を図る。

(2) 教師としての指導力を向上させる。

ア 授業改善に資する職員研修を充実する。

イ 教員評価を活かし、一人一人が各分掌の職務内容を自覚し、職責を確実に果たすことに努め、組織として機能する職員集団づくりに努める。

ウ 職員の人権感覚を磨くとともにサービスの厳正な遂行に努め、人間として信頼される教師となるべく必要な教養を身につける。

エ 言語活動を充実させ、確かな学力の定着を図る。

(3) 地域の教育環境や人材を積極的に活用する。

ア 40周年記念行事を通して地域の中の学校という思いを高める。

イ 地域支援本部事業を活用し地域の協力を得て、授業や体験活動、学校環境の充実を図る。

ウ 小学校との行動連携を深め、中1ギャップ防止に努める。

エ 町や地域の行事に積極的に参加させ、地域の一員としての自覚を高める。

(4) 教育課程の適切な計画と運営を図る。

ア 新学習指導要領完全実施へ向けて、「年間指導計画の完成」「評価基準の見直し」「教育課程の編成」を行う。

3 教育課程の自己点検・自己評価の厳正な実施

(1) 教育活動の成果と課題が明確になるような、評価計画の立案と的確な実施

教育活動の成果を的確に見取ることができる評価計画を作成し、教育活動の質的向上を目指して、自己点検を図り、常に教育活動の質的向上に向けて努力する。

(2) 保護者や地域との連携を図る評価結果の公表

学校評価の計画的な実施と結果公表を通して、出雲崎中学校の教育活動の積極的な啓発に取り組み、保護者や地域との連携強化に努める。